

「なごや認知症カフェ」の在り方に関する調査研究 — カフェ参加者を対象に

調査報告書

2018年3月

「なごや認知症カフェ」の在り方に関する調査研究 －カフェ参加者を対象に 調査報告書

目 次

1. はじめに	2
2. 調査の概要	
(1) 調査の目的	3
(2) 調査の方法	3
(3) 倫理的配慮	3
3. 調査の結果	
(1) 参加者の性別	4
(2) 参加者の年代	4
(3) 居住形態	4
(4) あなたの立場	5
(5) カフェのこれまでの参加回数	5
(6) カフェ情報の入手先	5
(7) カフェまでの主要な移動手段と所要時間	6
(8) カフェに参加する理由	6
(9) カフェに対する満足度	7
(10) カフェに参加する前と現在の気持ちの変化	10
① 外出の機会が増えた	
② 人と話す機会が増えた	
③ 知人・友人が増えた	
④ 不安感が少なくなった	
⑤ 近所の人との交流が増えた	
⑥ 認知症の理解が深まった	
⑦ 認知症について相談できる人と知り合えた	
⑧ 認知症の相談窓口を知ることができた	
⑨ カフェがなくなると困る	
⑩ 【「認知症の人」と「認知症の家族の人」のみを対象】同じ立場の人に出会えた	
⑪ 【「認知症の人」と「認知症の家族の人」のみを対象】認知症について相談ができた	
(11) カフェに参加した感想	12
(12) カフェに期待すること	17
4. 考察	20

参考資料

1. 「なごや認知症カフェ」参加者向けアンケート調査 調査票	22
2. 「なごや認知症カフェ」の基礎情報（2018年3月31日時点、159カ所）	24
3. 「なごや認知症カフェ」の在り方に関する調査研究【概要版】（2017年3月発行）	25

1. はじめに

名古屋市は、認知症の人と家族を支援する仕組みとして「なごや認知症カフェ」を事業化し、2018年3月31日時点で159カ所の登録がある。

「なごや認知症カフェ」は「認知症の人や家族、地域住民、専門職など誰もが気軽に集える場で、認知症の人や家族同士の相互交流・情報交換、家族の介護負担の軽減、認知症状の悪化予防又は地域での認知症啓発を目的とするもの」と定義され、次の5つの役割を担うことが期待されている¹。

- ① 認知症の人が安心して過ごせる場所（地域での居場所）
- ② 認知症の人を介護する家族の負担を軽減できる場所
- ③ 認知症の正しい理解が深められる場所（普及・啓発）
- ④ 認知症について気軽に相談できる場所
- ⑤ 地域でのつながりや連携が深められる場所（地域ネットワークづくり）

「なごや認知症カフェ」の運営者を対象に2016年に実施した私たちの調査²では、参加者が集まらずその役割を十分に果たせていないカフェもあることが明らかになった。カフェ運営者の多くが、「運営面：地域とのつながりをつくる」と「実践面：認知症の人・家族が過ごしやすい環境をつくる」という課題に直面していた³。

「なごや認知症カフェ」の効果的な運営を検討するためには、(1) カフェ運営者に加えて(2) カフェ参加者の視点からの現状把握が不可欠である。なぜなら、支援を受け取る参加者側の視点がなければ、その思いや求めるものとかけ離れた活動・カフェ運営にしかならないことが多いからである。同時に、支援はカフェ運営者の行為だけに還元できるものではなく、その場にいるさまざまな参加者のかかわりのなかで成立していると私たちは考えている。そこで、本報告書では「なごや認知症カフェ」の実態を参加者の視点から把握し、考察を加えて、今後の認知症カフェの在り方、および運営を検討する際の材料を提供することを目指す。

¹ 「なごや認知症カフェ」の推進や普及を図るため、名古屋市は、2015年7月から「なごや認知症カフェ登録事業」と「なごや認知症カフェ開設助成事業」を開始し、2016年9月からは「なごや認知症カフェ運営助成事業」も実施している。

² 詳細は、『「なごや認知症カフェ」の在り方に関する調査研究報告書』（2017年3月発行）を参照。www.kaigo-wel.city.nagoya.jp/view/kaigo/company/docs/2017062300038/files/cafe-houkokusho-2903.pdfよりダウンロードできる。概要版は、本報告書に参考資料として掲載している（p.25～28）。

³ 『「なごや認知症カフェ」の在り方に関する調査研究報告書』において、課題克服には「地域を知り、地域とともにカフェを運営していくこと」が重要になると私たちは指摘している。その理由は、地域を知ることで、カフェ運営者が認知度の向上をはかる方策を検討できるし、地域にある他機関と連携をはかることもできる。さらに地域とともに在ることでカフェを運営する仲間づくりも可能になって、その仲間と協力して場づくりをすることが可能だからである。

2. 調査の概要⁴

(1) 調査の目的

名古屋市内で実施されている認知症カフェ「なごや認知症カフェ」の実態を参加者（認知症の人、認知症の人の家族、地域住民、福祉・医療専門職）の視点から把握し、考察を加えて、今後の認知症カフェの在り方や運営、およびその運営支援の方法を検討する。

(2) 調査の方法

- ◎調査対象：名古屋市内で実施されている13⁵の「なごや認知症カフェ」の参加者
- ◎調査方法：郵送によるアンケート調査、封筒に入れた形で回収
- ◎調査時期：2017年10月3日（調査票郵送）～2017年11月30日（回収）
- ◎調査回収状況：配布数：275票 回収数：252票 有効回収数：247票
- ◎有効回収率：89.8%

ご協力いただいた13の「なごや認知症カフェ」

カフェ名	区	主体
カフェなみき	天白	医療
くらしのセンター カフェぬくもり	熱田	医療
認知症café ほほえみ	天白	介護
西日置茶屋	中川	介護
さんさんカフェ	南	介護
認知症カフェえがお	緑	その他
かなやまカフェ	熱田	介護
地域の皆様と共に お楽しみ会	瑞穂	介護
認知症カフェあかり	名東	その他
善常会にっこりカフェ	南	医療
オレンジカフェ「やっとかめ」	守山	その他
カフェあさひ	緑	介護
おたいカフェ	西	介護

(3) 倫理的配慮

調査対象者に研究の目的、方法、意義、匿名性の確保、結果の公表等について文書で説明し、調査協力への同意を得た。調査に関しては、個人が特定できないよう、データの入力、保管、およびプライバシーの保護に配慮している。

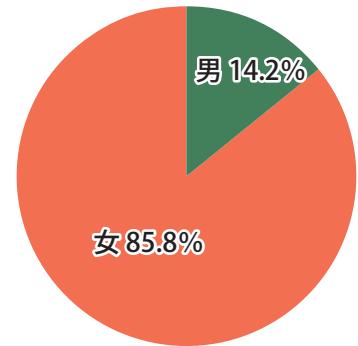
⁴ 本調査の実施にあたり、2017年8月10日に開催された認知症本人ミーティング（会場：名古屋市認知症相談支援センター）にオブザーバーとして参加をし、そこで得た情報をもとに調査票を作成した。

⁵ 13の「なごや認知症カフェ」の抽出方法は、まず2017年9月30日時点で、開設から1年が経過している93のカフェを抽出し、それらを運営主体別に分類すると、介護関連事業所が66カ所（71.0%）、医療機関が13カ所（14.0%）、その他が14カ所（15.0%）であった。本調査では、その割合に従って介護関連事業所7カ所、医療機関3カ所、その他3カ所、合計13のカフェを抽出している。また、区に偏りが出ないよう、1つの区から同じ分野の運営主体によるカフェを複数抽出していない。

3. 調査の結果

(1) 参加者の性別

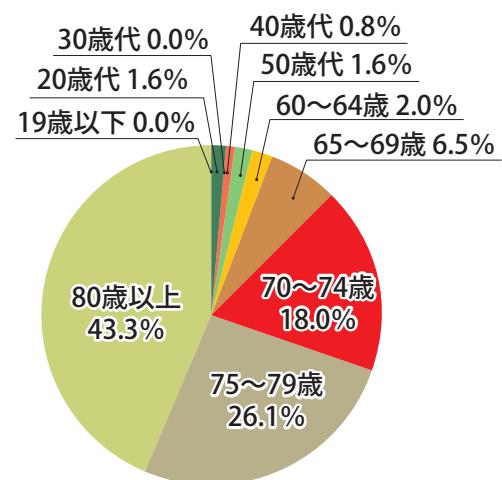
	回答数	構成比
男	34	14.2%
女	206	85.8%



(注) 構成比 = 回答数／有効回答 240

(2) 参加者の年代

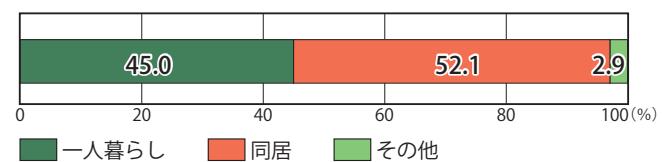
	回答数	構成比
19歳以下	0	0.0%
20歳代	4	1.6%
30歳代	0	0.0%
40歳代	2	0.8%
50歳代	4	1.6%
60歳～64歳	5	2.0%
65歳～69歳	16	6.5%
70歳～74歳	44	18.0%
75歳～79歳	64	26.1%
80歳以上	106	43.3%



(注) 構成比 = 回答数／有効回答 245

(3) 居住形態

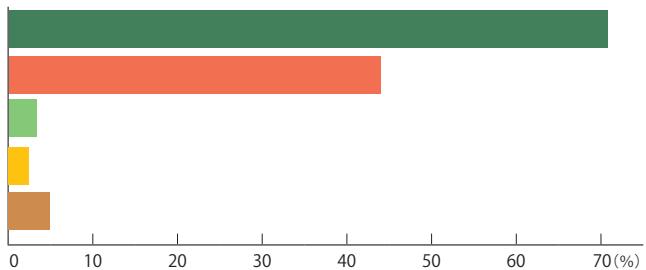
	回答数	構成比
一人暮らし	109	45.0%
同居	126	52.1%
その他	7	2.9%



(注) 構成比 = 回答数／有効回答 242

◆同居をしている人の属性

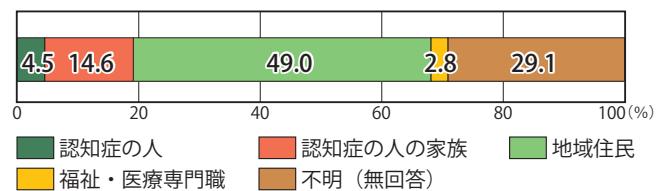
	回答数	構成比
配偶者	87	70.7%
子	54	43.9%
親	4	3.3%
兄弟	3	2.4%
その他	6	4.9%



(注) 複数回答のため、構成比 = 回答数／有効回答 123
として計算した。

(4) あなたの立場⁶

	回答数	構成比
認知症の人	11	4.5%
認知症の人の家族	36	14.6%
地域住民	121	49.0%
福祉・医療専門職	7	2.8%
不明（無回答）	72	29.1%



(注) 構成比 = 回答数／有効回答175

(5) カフェのこれまでの参加回数

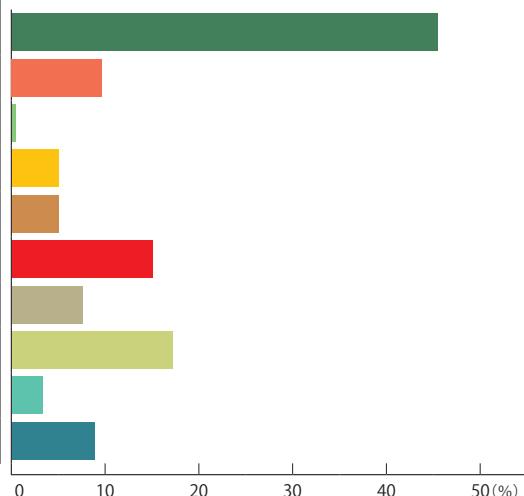
	回答数	構成比
初参加	32	13.0%
1~3回	24	9.7%
4~6回	45	18.2%
7~9回	35	14.2%
10~12回	31	12.6%
13回以上	80	32.4%



(注) 構成比 = 回答数／有効回答247

(6) カフェ情報の入手先

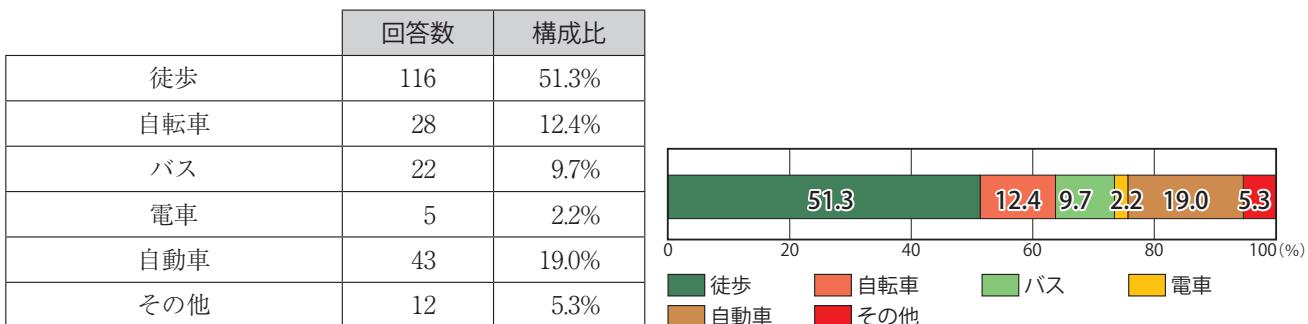
	回答数	構成比
知人・友人からの紹介	109	45.4%
案内チラシを見て（回覧板を含む）	23	9.6%
インターネットを見て	1	0.4%
広報誌を見て	12	5.0%
民生委員からの紹介	12	5.0%
カフェスタッフからの紹介	36	15.0%
ケアマネジャーからの紹介	18	7.5%
いきいき支援センターからの紹介	41	17.1%
かかりつけ医からの紹介	8	3.3%
その他	21	8.8%



(注) 複数回答のため、構成比 = 回答数／有効回答240として計算した。

⁶ 代筆は18あった。その内訳は、多い順にカフェスタッフ6、夫4、妻4、友人2、兄1、ヘルパー1である。

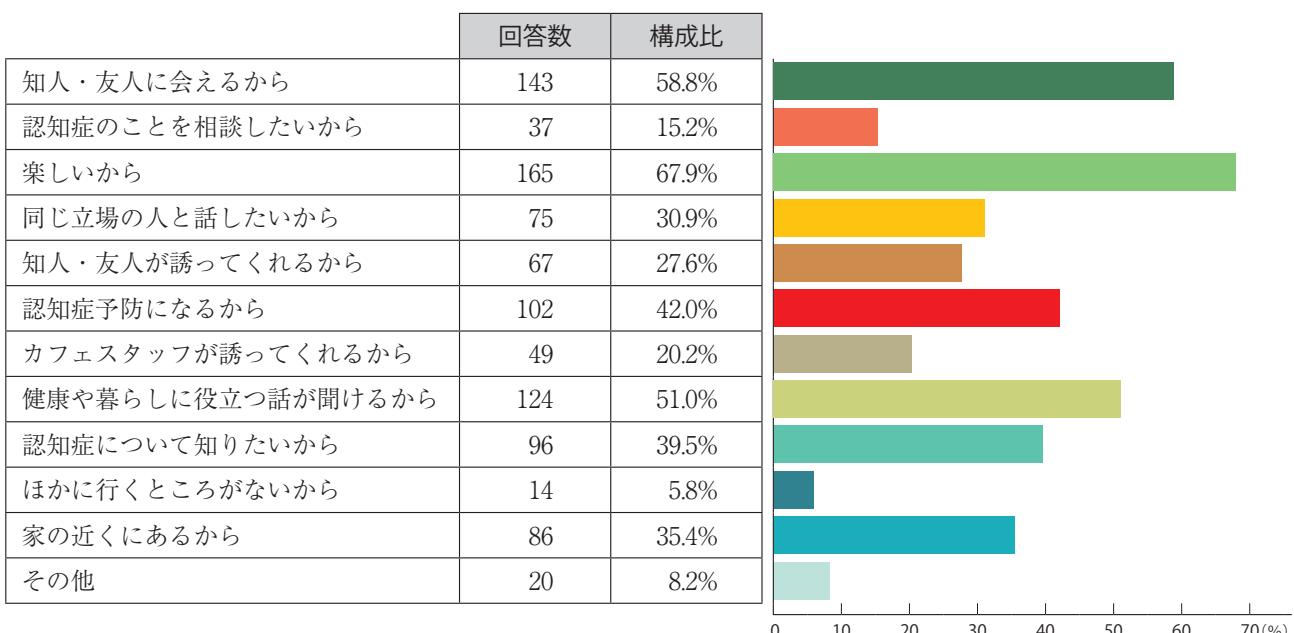
(7) カフェまでの主要な移動手段と所要時間



(注) 構成比 = 回答数／有効回答 226

◆ カフェまでの所要時間 平均 13.2 分 (有効回答 205)

(8) カフェに参加する理由



(注) 複数回答のため、構成比 = 回答数／有効回答 243 として

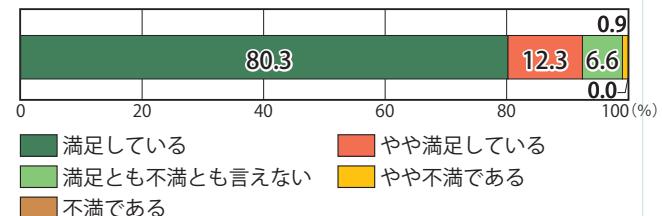
計算した。

「その他」の内容	
興味があった	
ボラの人達と話が出来る	
人の温もりのある居場所	
知っている場所の為安心感がある	
ケアハウス	
この年でゆるされる内容だったら出席する	
体操指導	
相談を受けることもある	
母が死亡（認知症）交通事故	
主人を介護していたから	
ボランティアの初めの一歩	

母との会食
義母との楽しいひととき
家族と一緒に参加できるから
カフェがどんなところかどんな感じか知りたい、参加をすすめる立場なので自分の言葉で紹介したい
福祉にかかわるボランティアをしていて、コーヒーを入れたり傾聴したり、何か学んだり役に立ちたい

(9) カフェに対する満足度

	回答数	構成比
満足している	183	80.3%
やや満足している	28	12.3%
満足とも不満とも言えない	15	6.6%
やや不満である	2	0.9%
不満である	0	0.0%



(注) 構成比 = 回答数／有効回答 228

「満足している」と回答した理由
小さな事でも聞いていただき、身の廻りにお話しする相手がいない私にとってはとっても有難いと思っています
自分にとって道しるべになる
なかよしムードでよい
主人が認症だから家でみるの大変だからここに来たら気持ちおちつきます
自分に出来ることは手をさしのべてあげたいと思います
心身共に健康でたのしいから
ボラの人達が皆明るく健康の人達なので話しが明るく元気になる
楽しい
自分が認知症にならない様に
話合ができる
①料金が安い②話題が豊富③スタッフが親切
色々と勉強になり友達が出来る
楽しいことが一番です。又、いろいろの話が、聞けて、自分だけじゃなく、誰れも同じ悩みが
とりあえず家から出ること、そして仲間に会えておしゃべりをすること
とてもスタッフの人が優しくしてくれるから
楽しい
楽しい、いろいろな物作りが出来
1人で暮らしているから楽しく皆話が出来る
詳しく教えて下さいので満足している
カラオケ 歌が好き
気分が変わっていいと思う
スタッフの人達がやさしい
自分の考えていることがまだまだダメでもっと勉強しなくてはならないと思った

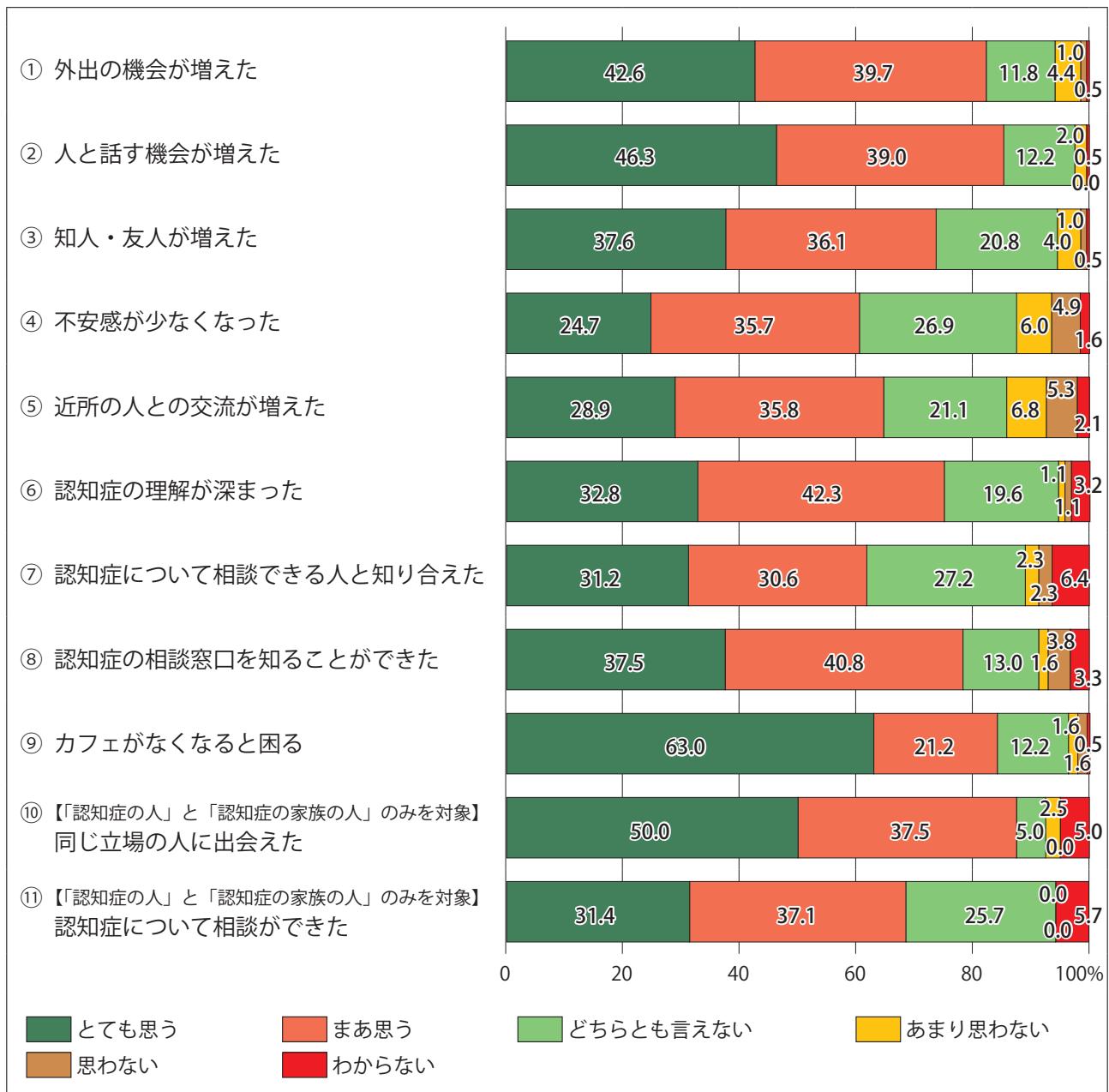
楽しい時間を送る事が出来ます
・施設がきれい・スタッフの感じが良い・コーヒーがおいしい、おやつも楽しみ
いろいろきかせて頂けます
スタッフの方達のどんな場面・参加者へのわけへだてのない、温かく優しく心のこもった対応に感心します。又参加の方達がとても大人です
気楽に話も出来き又、別の個人として付合えるかな
自分の無能をカバーしてくれるから（ご自身の発言）
何でも自由に話し合える
人の話を聞く雰囲気があるのでみなさんそれぞれの思いを話され参加されている方が満足されている感じだった
心地よい空間
いろいろな情報をいただけるし、一人ではなかなか出来ないけど皆で楽しく体操が出来たり楽しい時間が持てる
リハビリ体操あり、おやつあり、勉強会もあるから
カフェの皆さん心暖かいお世話を頂きまして楽しい時間を過ごさせて頂き嬉しく来させて貰っております
近くで楽しくご指導いただける事に対して感謝
近いし楽しい
ひきこもってる主人を連れて行ったら、とても喜んだ。ケアマネに相談できた
知人友人とお話し出来て楽しい
みんなに会えて声出して話したり歌ったり体を動かせるから
とても楽しく参加させて頂きました。みなさんと体操できてよかったです
スタッフの方や参加している人たちとの間で、温かい雰囲気で話されていたから
家庭的でゆったりできる
明るく、リラックスできる
スタッフの方が親切で話し易いから。御利用者様の話に興味があるから
近いし、役立つ話が聞けるから
楽しいから
初めて参加させて頂き体に良い食事をいただきありがとうございます
顔見知りの人にお会い出来るから
初参加ですが、偶然2周年という事で大満足です。これからも、都合がつく限り、参加したいと思います
モーニングに満足しています
毎回楽しく参加させてもらっています。職員の方も親切でしおいしい食べ物もすてきです
認知症になっても健康な生活が出来る
家から出て友人と会ったり、スタッフの方と話をしたり認知症の主人の事を相談したり、笑ったり話したり出来るから
職員さんが親切だから
健康、認知症についてのお話しがきけるから
簡易に相談出来る
内容が多岐に渡って計画され参加したい
知人が何人か出来た
イベントを中心にお茶を飲みながら心おきなく楽しく話ができる
知人が増えて楽しいです
いろんな人の意見を聞けるから、楽しい！知らない事が分かる
私は主人を介護（5年7ヶ月）しましたが、男性が奥様を介護する大変さが痛切に感じています

知人に会えるから
みなさんと話しができる
おやつが手作りで、とても美味しいで、あたたかみのあるふんいきでとても良いと思います
いつも親切にしていただくから
楽しい おやつが多くさんあり、おいしい
毎回しゅこうをこらして下さっている
親切にして下さる
皆様がとても親切です
スタッフの方々の感じの良さ
とてもおいしいスイーツが楽しみにしています
楽しい事を3回見ています。雨の日は心配ですが今日は来てしまいました
100円でコーヒー・スイーツが多くさんあるから安いです
おやつがたくさんありますので
近くで便利
スタッフの人や人達が良いから
オタイカフェスタッフが親切でとても楽しい
いろいろ楽しい事やっていただき沢山の方と逢えるから
私のしらない事を聞けるから
スタッフさんがやさしい とてもいいスイーツがいただける
毎月楽しみに待っています 手造りお菓子がおいしいです
スタッフの皆さんのが親切でたのしい出し物で元気がもらえます
手作りで美味しいおやつとスタッフのやさしい接し方に感謝しています

「やや満足している」と回答した理由
お茶代が安い
行政の事やサービス等教えてもらって参考にしています
余暇の有効利用
いろいろ話が出来るから
何度きても楽しいです
施設スタッフさん達の様子が伺える時間で、ここはとてもアットホームな所です
知人に逢えるから

「満足とも不満とも言えない」と回答した理由
2~3回ではまだわからない
果してカフェなるものがカフェの目的に適合しているのか疑問の点があるから
傾聴を重ねていると、支える側の努力ややしさが伺われる一方で、何故認知が発症したのかが窺えるような例も感じられるようになった。誰が傾聴に当たっても日常生活における不満とストレスを訴えられる方がいる。もう少しのびのびと笑っていただきたい。席の在り方を変えてみるなど工夫の検討を発言してみた。大むね職員の御努力など満足している
様子見に参加したので特にない

(10) カフェに参加する前と現在の気持ちの変化



回答数

	とても思う	まあ思う	どちらとも言えない	あまり思わない	思わない	わからない	有効回答数
① 外出の機会が増えた	87	81	24	9	2	1	204
② 人と話す機会が増えた	95	80	25	4	0	1	205
③ 知人・友人が増えた	76	73	42	8	2	1	202
④ 不安感が少なくなった	45	65	49	11	9	3	182
⑤ 近所の人との交流が増えた	55	68	40	13	10	4	190
⑥ 認知症の理解が深まった	62	80	37	2	2	6	189
⑦ 認知症について相談できる人と知り合えた	54	53	47	4	4	11	173
⑧ 認知症の相談窓口を知ることができた	69	75	24	3	7	6	184
⑨ カフェがなくなると困る	119	40	23	3	3	1	189
⑩ 【「認知症の人」と「認知症の家族の人」のみを対象】同じ立場の人に出会えた	20	15	2	1	0	2	40
⑪ 【「認知症の人」と「認知症の家族の人」のみを対象】認知症について相談ができた	11	13	9	0	0	2	35

(11) カフェに参加した感想

認知症の人
楽しみ、幸わせ
えがおに参加できた事に感謝している。安心して居ることができる友人、知人ができた。スタッフが優しく感謝している
中々おもしろい会だと思った
家族に世話をしている人の話しさ聞けるが発生の話、初期の話が知りたい。今後うかがいたい。予算、経費も聞きたい
皆さんとの会話ができうれしいです
友人に誘われた。とてもいい感じです
100円でこんなにたくさん出していただいて申し訳ない。楽しい一時うれしい、を月の一日おくれ…はこまかすぎてつらい

認知症の人の家族
カフェで世話する人と仲よくなれた
ケアマネージャーの方にすすめられて来てよかったです。毎月楽しみにしています。主人足が遅いから少しなんぎします
友人・仲間と話すこといろいろな問題から不安が取り除かれた。皆さんも同じような問題をかかえられている
このシステムを考案して下さったスタッフに感謝のみです
認知症の主人を介護していてジレンマになる日々、救われたい一心でカフェに参加して助かりました
知人が増えた
色んな人と会えるし、どうしようか迷っている時、参考にして判断できる
「話す」ことによってストレスが発散できる場所
毎回楽しみ
不安など心が軽くなる
雅楽を初めて観た。とてもすばらしかった
まわりで認知症の人の事を判ってほしいと思う事がある
話して楽しい
スタッフの積極的な関わりに多少とんちんかんながら話しが出来ていて良かったです。出来れば私は離れていたい
こういう場会を知る事が出来て良かったと思います
今日は久しぶりだったのですが、2周年オープンサンドイッチで特によかったです。認知症の家族といっしょに暮らしている方のお話もまた、聞きたいです
むだが多い。認知症のかん者をかかえている家族とはあまりにもかけはなれている。もっと実態を知ってほしい
参加してよかったです
いろんな話がきけて心がらくになる思いがします
良い
おいしいモーニングが戴けること。脳トレも良かった。健康食についての話、軽いストレッチの話など
カフェとは何ぞや?ということをもっとつきつめた解答が欲しい。只仲良しクラブで終るのならパチンコ屋や趣味の会、例えばマージャン、しょうぎ等の同好会(カラオケ)と同じじゃないかという気持
認知症を持つ本人にとっては環境も変わり、刺激になって良いと思います
母の情況が良く判りました。皆さまのサービスに感謝しております
人と話す事がたのしい
施設に入れられた家族の気持ちを複数の方からきくことができた。迷われることや後悔されておられた

お世話になっている義母と施設でカフェできる機会を設けて下さり大変うれしく思っております
とてもたくさんの人たちと会話ができるので、私自信もとても楽しく過ごすことができました。ありがとうございます
いつも色々と楽しませてくれる事
とても良い人が多いからうれしい

地域住民
普通
友達が増えた
いつも楽しいので参加するのを楽しみにしている
すばらしい人々にいっぱい会える事が出来た事です
体操があってよかったです
カフェに参加だけでなくボランティアに何か参加してもらうのにどう話かけたらいいか？カフェはサービスと値が安いだけが魅力と思ってる人が多くなっても？感じたことの一つです
皆さんと話がはずむ
多くの人に会っていろんな楽しみが増したように思う
すぐに友達感覚になれるところがよい場所になっている
みなさんの情報を得て広がりを感じることが出来ます
沢山の人と出会いがあり強強になり楽しいです
今までと生活、性格など違う友達が出来うれしく思っています。一人で参加しても、楽しくすごすことが出来る雰囲気の場所です
参加して楽しい
楽しい
楽しい
楽しい
楽しい、いろいろな物作りが出来
毎日1人で家にいるとさみしいから、少しでも楽しく暮せる様に
くり返しの説明が良い、歌をうたって楽しい
楽しいです
知人友人にあえて楽しい
歌を唄う事など楽しいです
回が少ないのでいまは、わかりません。回を重ねる事に楽しくなる様に感じます
・童謡とか昔の歌をみんなうたいたいです・ストレッチ体そうをみんなとしたい
参加者1人1人の悩みに真剣に取り組み、解決への糸口をそれぞれが抱いて、前進する力を与えてくれる
スタッフの皆さん方熱く語り掛けて下さり、お話し安い！
楽しい時間を持ててありがたいと思っています
初めは、障害がありますので、リハビリ体操もまともに出来ないのでいやだと思いましたが、今はそれなりにやっています。知っている場所だからこれる事もあります
大変いい事と思っている。楽しく参加出来ています
元気でられるので自分も元気を出して出席できる事がうれしく思う
体を動かす事やこれからの予防に役に立つと思った
近場で学べて幸せです
楽しいこと

楽しかった
月一回を心待ちする様になった
カフェに参加されている人とスタッフの方が日頃の世間話から認知症に関する相談について温かい雰囲気でお話されていたので、とても素敵な場所だと思いました
気軽に参加でき、とてもよい雰囲気です
家族の方でまだ認知カフェを知らない又利用法が分らない方が自分だけの認識で接していらっしゃる方がいます。この様なカフェをどの様に話かけたらと思案中です
みなさん明るくて、とても楽しかったです。おりがみ、バイオリンも、感激しました
友達が増えた事、新しい事を教えて頂ける
みんなの話を聞くのがたのしい
始めてなのでどんな人かと不安がありました
とてもよかったです
家にいることが好きですが家から出ることが出来て楽しくすごしています
人生の終りを大切に暮らして行けることに大切な場所
色々な話が出来相談ごとも出来る事が良い
大勢の方にお会い出来、活動が広がると思います
明るいふんいきに参加できることは余り外出しない私にとってはとてもきよな場だと思っています。いつまでも続けられますように
人と話す機会が増えて楽しいです
毎回楽しみにしています
同じテーブルの方とお話出来た事は良い
もう少し近くだと良いと思う
スタッフの皆さんご苦労さまです
いろいろな立場の方に接し参考になる
約にたつ
笑ってお話が出来、処と思っている
同じ様な考えの人が居た
参加することで、知人・友人と話すことが増え気分が明るくなった
お医者さまやら、色々な方より、いろいろ聞けた
◎物静かに寡黙な方が傾聴に入ったら別人のように幼少期の地域のことや兄弟、御両親のこと、お仕事のことを半ば懐かしそうに、半ばその時代にいるように行きつ戻りつ、楽しそうにお話し下さった男性の方が印象深い。「お待ちしておりましたよ！」とコーヒーをお出しすると、それとなし目と口がほころぶ。◎始めは気難しかったある男性、今では笑顔が多い。入所されてる奥様にもきっとこんな笑顔をされるのだろう！
和やかで良い
初めて参加しましたが、とても明るいふんいきでとてもよいと思う
色々とみなさんと話しが出来てとても楽しい
・久々の友達に逢る事がうれしい・色々変った音楽が聞く事が出来るのが好い
毎回変わったプログラムを組んで下さり気配りを感じ、有難く思ってたりします。お茶の提供も楽しみです
毎回とても楽しく楽しみにしています
楽しい日時で一日があつと云う間に過ぎていく感
自分と同じ事柄を考える方の意見を知ることが出来気持が安らかになりました
いろんな人に会えて楽しい　おいしいお茶菓子がいい
楽しいし、知合の方がふえました

毎月一度ここへ来る事が楽しみです コーヒー手造お菓子がおいしいです
楽しい時がすごせる
自分の知らない事、又色々な行事・習いこと等が楽しく見ることが出来ます
月1回の会が楽しみ第三土日
大変たのしくよろこんでいます これからもよろしくお願ひします
毎日が、まちどしい
楽しみにしてる
月1回参加させてもらう日がとても楽しく第三（土）がまちどしい
とても良い所です。楽しみです。コーヒー、お菓子がおいしいです
スタッフの皆さん一生懸命お茶の仕度をして下さり、歌や、いろいろと楽しませて下さる事に感動しております。とても大変なことと思います
楽しみのひとつとなっています
午後のひととき ほっとする やすらぎの時間です

福祉・医療専門職
心がゆたかになります
体操教室を行う機会をたくさん頂けるとうれしいです
リーダーがとても良い方でやすらぐ
ほど良い量でおいしく食しています
人と話をする事本当に楽しいです

立場不明
楽しい時間を過ごす事が出来大変よかったです
とっても楽しみに参加しています
顔見しりが出来て少しの間でも楽しい時が過す事が出来た
大勢の皆々様にお優しい言葉をかけて頂いて嬉しく思っています
認知症にならない為にガンバります
色々な事を教えて貰ってとても幸せを感じています。とてもうれしいです
歌（昔）をうたった事が良い
不安がなくなった
楽しい時間が過ごされました
先生達のお話しがためになる
近所の人と話し合いが出来る
嬉しく思って居ます
たのしいから
とても楽しみにしています
1ヶ月が楽しみです
地域の方でもなかなか町内が違うと語り合う機会がなかったけれど、ここのサロンで多くの方と知り合う事がとても楽しくなりました
月1回が楽しみ
毎回楽しみ
人と話をする事、本当に楽しいです

楽しい
皆さん楽しそうにしてみえる
家の中に閉じこもっていると色々な事が思いめぐらし認知症にからないように注意している
楽しいから元気になれる
認知症のお奥様を介護している（今は施設入所中）方が最初は反感を持たれ話をすることができなかったが今では笑顔を見られ、皆と楽しくおしゃべりをされるように変わったこと
知人と会話が出来る
職員の人の感じが良かった
楽しい
おいしいお菓子をいただきとてもたのしいです。又次も来たいと思う気持になります
手造のものをいろいろ出して下さるので1人ではつくてたべれないのありがたいと思っていた
カフェに参加することが楽しみ
たくさんお見えになり、びっくりしました。樂しひとときでした
楽しい時間が過せるから ありがとうございます
スタッフの人が親切でていこうなく参加出来ます
ここに来るのが楽しい
いつも一緒に人ばかりで少し感じが悪い
いつもお世話になるばかりですみません
とても楽しいです
いつも手造りのおいしいおやつが楽しみです
スタッフの人も親切で手作りの食べ物が出ることが楽しみ。来るたびにどんな物が出るかとても楽しみです
とても楽しい時間をありがとうございます
他人と話すことが認知症をふせぐに良いと思います

(12) カフェに期待すること

認知症の人
このままでよい
現在の状態で十分満足している
目的に従った内容かどうか知りたい。重い話ばかりで暗くなると参加の足が少なくなるがジレンマも考える
楽しい気持で参加できたるためずっと続けて下さい
おいしいコーヒーとお菓子をいただきました

認知症の人の家族
これからもよろしく
これからもよろしくお願いします
のまま続けてもらえば良いと思います
皆さん話をよく聞いて下さってよくして下さいます
話を聞いて下さるので安心出来る
美味しいお茶菓子も頂き楽しかったです。親切に笑顔で接して頂きありがとうございました
コーラスがあれば
今まで、良いです
みなさん親切だから感謝しています
良い
いつも笑顔で話しかけて下さったり、心配事の話をしんげんに聞いてアドバイスして下さるスタッフの方大好き
認知症を抱えている家族の中には、それこそ生きるか死ぬかの苦闘に悩んでいる人もいると思う。スタッフを一般人です。何処までつきつめ彼らの安心して生きる為に援助できるのかはっきりさせておいた方がいい。余りの期待をしてあとでがっかりすることもあるし、物足りないと感じる人もいる
母（本人）は甘い物が大好きなので、これからも甘い物を楽しみにしています
今後も楽しく、おいしいカフェの継続をお願いします
大変お世話になっております。楽しい時間をもてることに感謝です。これからも宜しくお願いします
これからもおいしいおやつを作って下さい。よろしくお願いします
参加者が交流に集中できる時間は1~1.5hくらいだと思った。それ以降は会場のあちらこちらで話がはじまってざわざわした感じになった。ファーリテーター（司会？）の人は話されている方に集中して対応されていたので良かった

地域住民
今の所大丈夫
特になし
歌はにがて
カフェに参加だけでなくボランティアに何か参加してもらうのにどう話かけたらいいか？カフェはサービスと値が安いだけが魅力と思ってる人が多くなっても？感じたことの一つです
今まで良い無理しないで
今まで充分これ以上期待しなくてよい
スタッフがとても良いので楽しく過ごすことが出来ます
スタッフの方に求めるじゃなく。感謝してます
云う事なし
今まで良い

いつも親切にしてもらえてうれしいです クイズなどもあると楽しいと思います
今まで充分です。参加者をお客様扱いにしないで下さい
簡単な運動をしたい
充分だと思います
少しでもケアマネさんの手助けが出来ればと思っていましたが、今はだいぶ手伝っていただいている。わきあいあいでいいけいこうですね
特になし
スタッフ、なかなか心づかい良く感謝いたしてます
皆さん一生県命お世話している事に感心しました
地域の中で認知症について悩んでいる方や相談所へつながる第一歩としての居場所になればいいな…と思います
人数がふえるとよい
御苦労様としか云えません
ない
良くて下さっていると思います
カフェスタッフさん1人1人が大切に思えて、これから皆さんささえあって生活して行くことが生活して行く所を大変感謝思っています
スタッフの人達に感謝！
十分です。ご努力、ご苦労様です
人ずうが多いので職員の方の話をききもらすことがままある。できればゆっくり大きい声で話してほしい。周りの私語を止めて話してほしい（大切なことは）
皆さん一生けん命に動かれて感謝している
皆が簡単に参加出来る様皆を誘いたです
ご苦労さまです
なるべく認知症の方を介護した経験のある方がボラに居てくれたら好いなと思います
今まで良い
いつも手作りでおいしいです
現状で充分です
親切にしていただき有難うございます お体に気を付けて！よろしくお願い致します
これからも末永く続くことを願っております
やさしい方ばかりなので楽しい気分で先々安心出来ます
いつも有がとうございます
1人で心配している事を人と話するとスッキリします。楽しくなります
なくならないようにして下さい
云うことなし
笑顔で出迎えて下さる
これからもよろしく
なくなるとさみしいから長くつづけてほしい
これからもつづけて下さい
ぜったいなくならないようお願いします
スタッフさんもとても良い人ばかりです 1人きりになった時、有料老人ホームをどこへ入ったらよいかわからないで不安です
ただただ感謝です
いつも、美味しい、茶菓子、ありがとうございます

福祉・医療専門職

いつもしっかりアドバイスしていただいている。ありがとうございます

みなさんとても協力的で良いと思います

会話がはずみます

立場不明

とってもしんせつにもらっていますので感謝しています

職員さんがすごく熱心で、歌ひとつでもいろんな意味を教えて下さるので何時も感心しています

役員の皆々様大変お骨折り下さり有難の一言に尽きます

とてもステキな雰囲気

何も云う事は無いです。有難うございます

若い方にあってとても楽しいです

日頃していることの実えん

今のように暮して行きたい

皆さんしんせつです

いつも皆の為に色々とお世話になっています

楽しい所だと思いました

中には聞き手に回って欲しい人もあるので、スタッフが認知症の勉強会を持つのも良いかもしれない

長く続く事を期待する

皆さんしんせつにして下さるのでありがとうございます

何もないです。これからも参加出来る時は自由に参加したいです

やさしく親切にして頂いています

今まで私は十分です。やさしいです

今まで充分です

4. 考察

本調査は、「なごや認知症カフェ」の実態を参加者（認知症の人、認知症の人の家族、地域住民、福祉・医療専門職）の視点から把握し、考察を加えて、今後の認知症カフェの在り方、および運営を検討する際の材料を提供することを目的として実施した。

調査結果からは、「なごや認知症カフェ」という場が、参加者の行動に影響を与えていたかもしれないことが明らかになった。具体的には、参加者のうち「外出の機会が増えた」は82.3%（とても思う+まあ思う）、「人と話す機会が増えた」は85.3%（同）、「知人・友人が増えた」は73.7%（同）である。

次に、参加者の84.2%（とても思う+まあ思う）が「カフェがなくなると困る」と回答していることから、「なごや認知症カフェ」が参加者にとって地域の社会資源として認められていることが明らかになった。また、92.6%の参加者がカフェに対して「満足」（満足している+やや満足している）と回答している。これは、カフェ運営者による工夫や働きかけの結果ではないだろうか。実際、複数の参加者がスタッフによる働きかけを「満足」を感じる理由に挙げている。

続いて、認知症の人とその家族に焦点を当てると、「なごや認知症カフェ」に参加することで「同じ立場の人に出会えた」が87.5%（とても思う+まあ思う）、「認知症について相談ができた」が68.5%（同）と回答している。厳しい状況に直面しがちな人にとってもカフェは重要な社会資源になっている可能性がある。感想を見てみると、認知症の人は「安心して居ることができる友人、知人ができた」「皆さんとの会話ができるうれしいです」「楽しい気持（ち）で参加できるためずっと続けてください」と書いている。認知症の人の家族は、「認知症の主人を介護していてジレンマになる日々、救われたい一心でカフェに参加して助かりました」「友人・仲間と話すこといろいろな問題から不安が取り除かれた。皆さんも同じような問題をかかえられている」「色々な人と会えるし、どうしようか迷っている時、参考にして判断できる」「認知症の家族といっしょに暮らしている方のお話もまた、聞きたいです」「認知症を持つ本人にとっては環境も変わり、刺激になって良いと思います」と答えている。

最後に、本調査の限界と今後の課題を述べる。まず、本調査の限界は、カフェに参加していない人を調査対象から除外していることである。カフェに参加していない人のなかには、初めのうちは参加していたものの、満足を得ることができず参加意欲を失った人がいる可能性もある。従って、これではカフェの真の姿を把握できていない可能性がある。これは今後の課題としたい。

加えて、カフェ運営者によるさまざまな工夫や働きかけによって、「なごや認知症カフェ」は地域の社会資源になっている。支援の質を高めるためには、場を「作り込み」すぎないことが重要という指摘⁷に私たちも同意するけれども、運営者がカフェという場にいかに働きかけているのか、あるいは場の構成主体でもある参加者とどのような相互作用をしているのかを、フィールド調査を通じて明らかにする必要があると考えている⁸。運営者と参加者が育む場の力に今後も注目していきたい。

⁷ 三井さよ（2012）「<場>の力 ケア行為という発想を超えて」、三井さよ・鈴木智之（編）『ケアのリアリティー境界を問いかねよ』法政大学出版局。

⁸ 人が集まる場の特徴として、西川は「ボランタリーに集まる人々が立場を超えて対等に付き合うことをめざしていること、誰もが当事者としてそこにかかわっているということ。誰かがなにかをしてあげるというような一方的な・固定的な関係にならないように、さまざまなしきけをしていること、役割をもうけて、“立つ瀬”をつくっていること。ありがとうと互いに言い合えるような機会をつくっていること。もめることや気まずくなることを恐れず、対話を求め、それを学びとしていること。そして、その場所に閉じているわけではなくその場所を拠点にして人の関係をまちにひろげていること……」（p.135）と述べている。西川正（2017）『あそびの生まれる場所「お客様」時代の公共マネジメント』ころから。

ご多用にもかかわらず、「なごや認知症カフェ」の在り方に関する調査研究－カフェ参加者を対象に」にご協力いただきありがとうございました。おかげさまで252名の方々にご協力いただくことができました。今後も、皆様のご意見をお伺いしながら調査研究を進めてまいります。今後もお力をお貸しいただければ幸いです。この度は、アンケート調査へのご協力、本当にありがとうございました。

参考資料

- | | |
|--|----|
| 1. 「なごや認知症カフェ」参加者向けアンケート調査 調査票 | 22 |
| 2. 「なごや認知症カフェ」の基礎情報（2018年3月31日時点、159カ所） | 24 |
| 3. 「なごや認知症カフェ」の在り方に関する調査研究【概要版】（2017年3月発行） | 25 |

「なごや認知症カフェ」 参加者向けアンケート調査へのご協力のお願い

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃から、「なごや認知症カフェ」（以下、カフェ）にご参加いただき、ありがとうございます。
さて、名古屋市認知症相談支援センターでは、愛知県立大学コミュニケーション・コラボレーション
センター・金治宏助教と共に「名古屋市における認知症カフェの在り方にに関する調査研究」を行っています。

このたび、カフェに参加されている皆さんのご意見・ご感想をうかがって、カフェの現状や課題、効果などを把握して、「認知症になつても安心して暮らせる地域づくり」に役立てたいと考えています。
つきましては、お忙しいところ大変申し訳ありませんが、以下のアンケートにご協力いただけますよう、よろしくお願ひいたします。

平成29年10月 名古屋市認知症相談支援センター
愛知県立大学コミュニケーション・コラボレーションセンター 金治 宏

「なごや認知症カフェ」とは？

認知症をもつ人やその家族、地域住民、医療・介護の専門職など、**どなたでも参加できる集いの場**です。認知症について学んだり、気になっていることを専門職に相談したり、地域の皆さん同士で交流するカフェです。名古屋市には142カ所（平成29年8月末）の「なごや認知症カフェ」があります。

ご回答にあたってのお願い

- 本アンケート調査は、「なごや認知症カフェ」に参加する皆さんにご記入をお願いするものです。
- 調査結果はすべて統計的な処理をしますので、個人の名前や回答が特定されることはありません。
- お一人ずつ封筒に入れて提出していただきますので、カフェスタッフがあなたの回答を見ることはありません。普段思っておられることをありのままにお答えください。
- どちらかが代筆される場合は、「問1」の※欄に代筆者のお立場を記載してください。
- わからない質問がありましたら、質問を飛ばしていただいても結構です。また、答えたくない質問にはお答えいただかなくてもかまいません。
- 回答された調査票は**11月30日(木)**までに封筒に入れて、カフェスタッフにお渡しください。

【問い合わせ先】

〒462-8558 名古屋市北区清水4-17-1 名古屋市総合社会福祉会館6階
名古屋市認知症相談支援センター 担当 鈴木・山本
TEL 052-919-6622/FAX 052-913-9553 メール n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp

カフェに参加する前と現在のお気持ちの変化についておたずねします。

問7. カフェに参加する前と現在を比較して、あなたはどのような変化を感じていますか。
それぞれの項目について、1~6のうち、あなたの現在のお気持ちにもっとも近い番号に、○をつけてください。

記入例) ○○○○○○について ⇒	⇒	1	2	3	4	5	6
(1) 外出の機会が増えた	⇒	1	2	3	4	5	6
(2) 人と話す機会が増えた	⇒	1	2	3	4	5	6
(3) 知人・友人が増えた	⇒	1	2	3	4	5	6
(4) 不安感が少なくなった	⇒	1	2	3	4	5	6
(5) 近所の人との交流が増えた	⇒	1	2	3	4	5	6
(6) 認知症の理解が深まった	⇒	1	2	3	4	5	6
(7) 認知症について相談できる人と知り合えた	⇒	1	2	3	4	5	6
(8) 認知症の相談窓口を知ることができた	⇒	1	2	3	4	5	6
(9) カフェがなくなると困る	⇒	1	2	3	4	5	6
以下は、「問1 あなたの立場」で「認知症をもつ人」と「認知症をもつ人の家族」を選んだ方のみお答えください。	⇒	1	2	3	4	5	6
(10) 同じ立場の人と出会える	⇒	1	2	3	4	5	6
(11) 認知症について相談ができた	⇒	1	2	3	4	5	6

カフェについて、あなたが日ごろ感じていることをおたずねします。

問8. カフェに参加した感想を教えてください。(感じたこと・心に残っていることなど)

記入例) ○○○○○○について ⇒	⇒	1	2	3	4	5	6
(1) 徒歩	⇒	1	2	3	4	5	6
(2) 自転車	⇒	1	2	3	4	5	6
(3) バス	⇒	1	2	3	4	5	6
(4) 電車	⇒	1	2	3	4	5	6
(5) 自動車	⇒	1	2	3	4	5	6
(6) その他 (具体的に:)	⇒	1	2	3	4	5	6

問9. カフェスタッフに求めること・期待するがあれば、ご自由にご記入ください。

記入例) ○○○○○○について ⇒	⇒	1	2	3	4	5	6
1. 満足している 2. やや満足している 3. 満足とも不満とも言えない 4. やや不満である 5. 不満である	⇒	1	2	3	4	5	6
その理由を教えてください。	⇒	1	2	3	4	5	6

これですべての質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。お手数ですが、もう一度記入漏れがないかお確かめのうえ、封筒に入れてカフェスタッフにお渡しください。

あなたのことについておたずねします。

問1: あなたのことについてお答えください。(選択肢の設問は、あてはまるものに○印)

性別	男	・	女
年代	・19歳以下	・20歳代	・30歳代
	・60歳~64歳	・65歳~69歳	・70歳~74歳
	・75歳~79歳	・80歳以上	・50歳代
居住形態	・同居 ⇒ 同居している人に○をつけてください (配偶者・子・親・兄弟・その他)	・その他 (具体的に:)	・一人暮らし
あなたの立場	・認知症をもつ人	・認知症をもつ人の家族	・地域住民
	・地元専門職	・福祉・医療専門職	※どなたかが代筆される場合 代筆者の立場 (例: 妻、夫、カフェスタッフ、友人など)

あなたが参加している「カフェ〇〇」についておたずねします。

問2. カフェにこれまで何回参加したことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。

() 初参加	() 1~3回	() 4~6回	() 7~9回
() 10~12回	() 13回以上		

問3. カフェの情報をどちらで入手しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

() 知人・友人からの紹介	() 案内チラシを見て (回観板を含む)
() インターネットを見て	() 広報誌を見て
() 民生委員からの紹介	() カフェスタッフからの紹介
() ケアマネジヤーからの紹介	() いきいき支援センターからの紹介
() かかりつけ医からの紹介	() その他 (具体的に:)

問4. カフェまでの移動手段について、主要なもの一つに○をつけ、ご自宅からカフェまでの所要時間を教えてください。

1. 徒歩	2. 自転車	3. バス	4. 電車	5. 自動車	6. その他 (具体的に:)
■所要時間 約 分					

問5. あなたがカフェに参加する理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

() 知人・友人に会えるから	() 認知症のことを相談したいから
() 楽しいから	() 同じ立場の人と話したいから
() 知人・友人が説くられるから	() 認知症予防になるから
() カフェスタッフが説くられるから	() 健康や暮らしに役立つ話が聞けるから
() 認知症について知りたいから	() ほかに行くところがないから
() 家の近くにあるから	() その他 (具体的に:)

問6. カフェに対する満足度について、あなたの考え方1番近いものに○をつけ、その理由を教えてください。

1. 満足している	2. やや満足している	3. 満足とも不満とも言えない	4. やや不満である	5. 不満である
その理由を教えてください。	⇒	1	2	3

2. 「なごや認知症カフェ」の基礎情報（2018年3月31日時点、159カ所）

区別カフェ数	カ所
南	18
中川	16
北	14
天白	13
名東	12
緑	12
中村	11
西	11
守山	9
港	8
千種	8
昭和	8
熱田	7
瑞穂	5
東	5
中	2

運営団体（法人種別）	カ所
株式会社	59
社会福祉法人	30
医療法人・社会医療法人	23
地域住民	15
生活協同組合	8
有限会社	7
特定非営利活動法人	6
いきいき支援センター	4
一般社団法人	3
合同会社	1
財団法人	1
独立行政法人	1
学校法人	1

開催場所	カ所
介護関連事業所	105
医療機関	21
いきいき支援センター	3
その他	30

開催頻度	カ所
週1回以上	16
月3回	1
月2回	13
月1回	110
年6回（2カ月に1回）	9
年4回（3カ月に1回）	10

開催時間	カ所
1時間30分	22
2時間	124
2時間30分	5
3時間	4
4時間以上	4

運営主体（事業所種別）	カ所
デイサービス	26
地域住民	17
特別養護老人ホーム	14
介護老人保健施設	14
グループホーム	11
小規模多機能型居宅介護	9
介護付き有料	9
病院	8
診療所	7
居宅介護支援事業所	7
訪問介護	5
高齢者住宅	5
いきいき支援センター	4
薬局	4
複数種別	3
認知症対応型デイサービス	2
訪問看護	2
住宅型有料老人ホーム	2
その他	2
喫茶店	1
事業団	1
福祉会館	1
歯科	1
地域密着型特別養護老人ホーム	1
保育園	1
短期大学	1
福祉用具	1

開催曜日	カ所
月曜日	13
火曜日	19
水曜日	27
木曜日	26
金曜日	18
土曜日	27
日曜日	23
曜日指定なし	23

参加費	カ所
0円	30
～100円	66
～200円	45
～300円	15
～400円	2
～500円	1

3. 「なごや認知症カフェ」の在り方に関する調査研究【概要版】（2017年3月発行）

「なごや認知症カフェ」の在り方に関する調査研究【概要版】

（1）調査の目的

「なごや認知症カフェ」の現状と今後の課題を明らかにすることで、実際の運営を行うカフェ運営者のみならず、「なごや認知症カフェ」の整備に関わる関係者が、現状の課題を共有し、今後の在り方について検討する際の材料を提供することをめざす。

（2）調査の概要

- 調査対象：2016年6月30日時点で開設されている「なごや認知症カフェ」86カ所
- 調査方法：調査票郵送、回収
- 調査時期：2016年7月21日（調査票郵送）～2016年8月31日（回収）
- 調査票回収状況：発送数86票 回収数76票
- 回収率：88.4%

（3）用語の定義

運営スタッフ：団体に所属し、「なごや認知症カフェ」の運営に携わる人

協力者：事前準備、運営、振り返り等に協力する団体以外の人（ボランティア）

参加者：上記の運営スタッフ、協力者以外の参加者（認知症の人や家族、地域住民など）のこと

認知症地域支援推進員：

認知症の人や家族が暮らしやすいまちづくりをめざし、地域におけるネットワークの構築、認知症ケアバスの作成・普及、認知症カフェの開設・運営支援などに取り組む専門職のこと。2016年4月から名古屋市内の全いきいき支援センターに1名ずつ配置されている。

1. 「なごや認知症カフェ」とは

名古屋市では、認知症の人と家族を支援する仕組みとして「なごや認知症カフェ」を事業化している。「なごや認知症カフェ」は「認知症の人や家族、地域住民、専門職など誰もが気軽に集える場で、認知症の人や家族同士の相互交流・情報交換、家族の介護負担の軽減、認知症状の悪化予防又は地域での認知症啓発を目的とするもの」と定義され、次の5つの役割を担うことが期待されている。

- ① 認知症の人が安心して過ごせる場所（地域での居場所）
- ② 認知症の人の介護する家族の負担を軽減できる場所
- ③ 認知症の正しい理解が深められる場所（普及・啓発）
- ④ 認知症について気軽に相談できる場所
- ⑤ 地域でのつながりや連携が深められる場所（地域ネットワークづくり）

「なごや認知症カフェ」の推進や普及を図るため、名古屋市は、2015年7月から「なごや認知症カフェ登録事業」と「なごや認知症カフェ開設助成事業」を設け、2016年9月からは「なごや認知症カフェ運営助成事業」も開始している。2017年3月31日時点で「なごや認知症カフェ」は127カ所の登録がある。

「なごや認知症カフェ」の大きな特徴は専門職の配置である。専門職とは「医師・看護師等の医療関係者や社会福祉士・精神保健福祉士等の福祉関係者、認知症キャラバン・メイト等認知症に関する知識を習得している者」で、「認知症の相談業務に従事した経験のある者」を指す。専門職が配置されることで「いつ、どの段階で、どこに相談していいのか分からぬ」といった不安を抱く認知症の人や家族に対して役に立つ情報を提供して、早期診断・早期対応の機会を提供することをめざしている。

2. 「なごや認知症カフェ」の現状

（1）開催目的

「なごや認知症カフェ」は、「なごや認知症カフェ登録事業実施要領」によると「（1）認知症の本人やその家族同士の相互交流・情報交換、（2）家族の介護負担の軽減、（3）認知症状の悪化予防、（4）地域での認知症啓発」の全部または一部を主たる目的とする。

もっとも重視する目的を問う設問に対して、多い順に認知症の本人やその家族同士の相互交流・情報交換66.2%、地域での認知症啓発19.1%、その他11.8%、家族の介護負担の軽減2.9%であった。認知症状の悪化予防を挙げたカフェはなかった。

【もっとも重視する目的】



(2) 参加者数とその変化

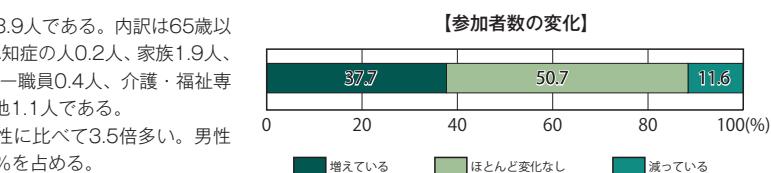
カフェ1回につき参加者の平均は13.9人である。内訳は65歳以上の中認知症の人3.1人、64歳以下の認知症の人0.2人、家族1.9人、地域住民5.5人、いきいき支援センター職員0.4人、介護・福祉専門職1.3人、医療専門職0.4人、その他1.1人である。

参加者を性別で見ると、女性が男性に比べて3.5倍多い。男性の参加がないカフェは、全体の13.0%を占める。

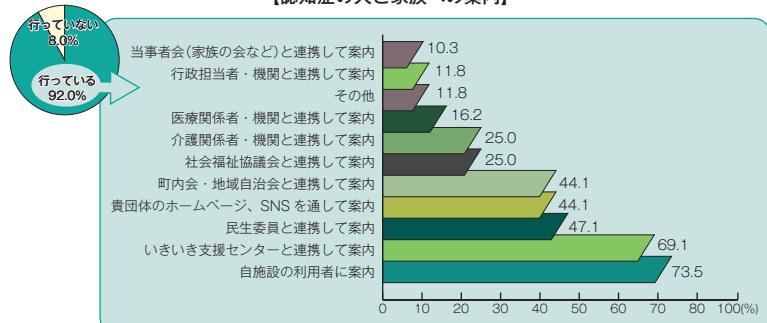
カフェをこれまで3回以上開催した運営者を対象に「開設時に比べて参加者の変化を教えてください」と尋ねたところ、参加者が「増えている」のは37.7%、逆に「減っている」のが11.6%あった。

(3) 広報

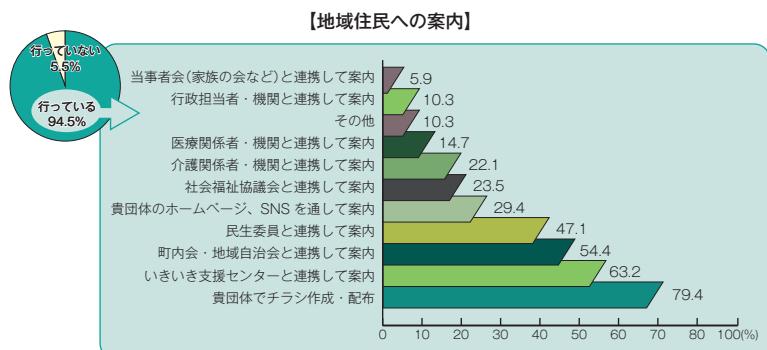
認知症の人や家族に案内を行っているカフェは92.0%である。案内方法は、多い順に自施設の利用者に案内73.5%、いきいき支援センターと連携して案内69.1%、民生委員と連携して案内47.1%、町内会・地域自治会と連携して案内44.1%、自団体のホームページ、SNSを通して案内44.1%である。



【認知症の人と家族への案内】



地域住民に案内をしているカフェは94.5%である。案内方法は、多い順に自団体でチラシ作成・配布79.4%、いきいき支援センターと連携して案内63.2%、町内会・地域自治会と連携して案内54.4%、民生委員と連携して案内47.1%、自団体のホームページ、SNSを通して案内29.4%である。



(4) 協力者

カフェで活動する協力者の平均は5.4人である。その属性は、介護・福祉専門職24.4%、地域住民22.0%、民生委員12.2%、認知症サポーター9.8%、その他9.1%が多い傾向だった。また、協力者のいないカフェは12.3%ある。

協力者の募集は40.5%のカフェが行っている。その募集方法は自団体の関係者に募集43.3%がもっと多く、いきいき支援センターと連携して募集33.3%、町内会・地域自治会と連携して募集30.0%、自団体でチラシ制作・配布26.7%が続く。

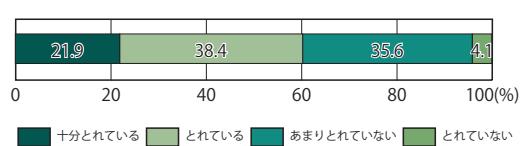
協力者のスキルアップについては、32.4%のカフェで取り組まれていた。

【協力者の属性】

地域住民	22.0%
医師	2.4%
民生委員	12.2%
医師以外の医療専門職	4.3%
認知症サポーター	9.8%
行政職員	1.2%
いきいき支援センター職員	7.3%
社会福祉協議会職員	3.0%
介護・福祉専門職	24.4%
当事者会(家族の会など)のメンバー	4.3%
その他	9.1%

(5) 認知症地域支援推進員・いきいき支援センターとの連携

カフェ支援をしているのが認知症地域支援推進員といきいき支援センターである。「認知症地域支援推進員やいきいき支援センターはカフェを応援しています。連携はどれくらいありますか」という設問に対し、もっと多かったのが「とれている」で38.4%、続くのが「あまりとれていない」で35.6%だった。



(6) 地域（地域住民、町内会）との関わり

カフェを開設したことで地域との関わりが「増えている」と回答したカフェが45.3%ある。地域との関わりが「増えている」具体的な内容としては、以下のような自由記述回答があった。

一方で「ほとんど変化なし」と回答したカフェは54.7%あった。

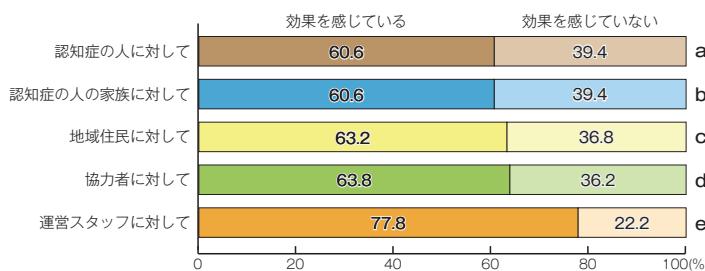
【地域との関わりの内容】

いかにして町内の方々に役立てることが出来るかを町内会役員の方とよく話すようになってきている【南区】
町内会長をはじめ老人会会長、民生委員等にご参加いただいている。また、案内配布などカフェのPRにもご協力いただいている【瑞穂区】
地域の方が認知症センター養成講座を受けている【中村区】
民生委員の方が協力的で告知などの助言をしてくださるようになった。またカフェボランティアの方がカフェ開催日以外でも毎週決まった曜日に施設にボランティアに来てくださるようになった【中村区】
カフェをきっかけに地域住民からいろいろな相談や地域行事への誘いをいただくようになった【西区】

(7) 認知症カフェの効果

認知症の人に対して効果を感じているカフェは60.6%だった。同様に、認知症の人の家族に対しては60.6%、地域住民に対しては63.2%、協力者に対しては63.8%、運営スタッフに対しては77.8%のカフェが効果を感じている。

【認知症カフェの効果】

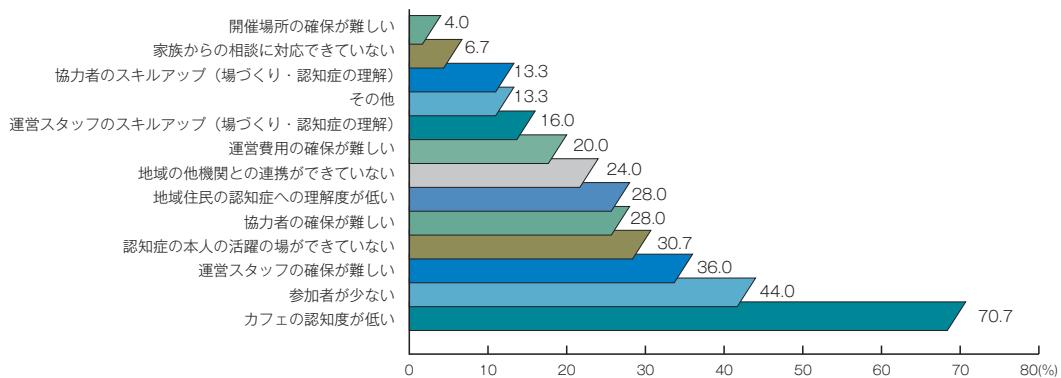


【認知症カフェの具体的な効果】

a 認知症の人	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェに参加中は表情がいきいきとされ、「楽しかった」と帰るときに言われる【北区】 ・「カフェに定期的に伺うことで、本人が以前に比べ明るくなつた」「生活が規則正しくなつた」「新しい友人が増えた」「出かける場所ができ、生きがいができた」「何もお話しできないけれど、出かけられることを楽しんでいる」「出かけてお茶を飲める場所ができ、性格が穏やかになった」「カフェは心からくつろげ、安心していられる場所」など好ましい効果が生まれている【千種区】 ・とてもイベントを楽しんでおられる。貴重な外部とつながる社会交流の場になっている【瑞穂区】 ・デイも利用されていますが、全然雰囲気が違うのでリラックスしてみえるように思います【千種区】 ・地域住民とご本人が顔なじみとなり、気軽に会話できる関係となっている【中川区】
	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が楽しまれている姿を見て、安心され前向きに変わられた【熱田区】 ・「同じような立場の方々と話ができる、慰められることがある」「本音で話せる友人がみつけられた」「自分自身の憩いの場所になっている。皆様から親切をいただいている」「介護の役立つ知識が得られる場所」「家族サロンしか知らないが何物にも代えがたい場所になっている」など、カフェに参加している間は介護から解放され、介護者の癒しの時間となっている【千種区】 ・「認知症」という病気を知っていたらしく、ご本人の姿（きちんと支援すれば安定）を見てもらえる【緑区】 ・「一緒に来られるところができるよかったです。家ではほとんど会話しないがここではよく話ができる楽しい」と言ってくださっている【守山区】 ・気楽に看護師、ケアマネジャーと話ができる場所として効果大である【南区】
b 認知症の人の家族	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症への知識を深めようとした質問される方が増加。気軽に認知症のご本人への声掛けをされる方が増加した【中川区】 ・自治会の方々ともともとでも仲良くなり、地域の防災訓練、施設の防災訓練など、おたがいに参加するようになった【瑞穂区】 ・アンケート結果（5回来店したり、リピーター向けアンケート）では認知症のイメージが変わった人が15人中11人【南区】 ・活動を通して地域の方々を含むボランティアと参加者とのつながり構築に寄与している【名東区】 ・近隣の住宅より自治会長さんやボラさん、民生委員さんが参加。地域の方は認知症の方を見守り、カフェへ一緒にみえる。また防災についての話し合いをする【北区】
	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方と直接関わることで認知症の方の「できること」に目を向けるなど、理解が深まっている【港区】 ・認知症への誤解や偏見が少なくなり、地域ネットワークづくりに取り組んでくださっている【瑞穂区】 ・認知症の方と普段関わらない方が、興味があり、協力したいと思っている方がたくさんいらっしゃる。そんな方たちの第一歩になっていると思う【瑞穂区】 ・ボランティアのため、人が人を呼ぶ効果は感じている【南区】 ・地域で認知症について話題にすることが多くなっている【名東区】
c 地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症への知識を深めようとした質問される方が増加。気軽に認知症のご本人への声掛けをされる方が増加した【中川区】 ・自治会の方々ともともとでも仲良くなり、地域の防災訓練、施設の防災訓練など、おたがいに参加するようになった【瑞穂区】 ・アンケート結果（5回来店したり、リピーター向けアンケート）では認知症のイメージが変わった人が15人中11人【南区】 ・活動を通して地域の方々を含むボランティアと参加者とのつながり構築に寄与している【名東区】 ・近隣の住宅より自治会長さんやボラさん、民生委員さんが参加。地域の方は認知症の方を見守り、カフェへ一緒にみえる。また防災についての話し合いをする【北区】
	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方と直接関わることで認知症の方の「できること」に目を向けるなど、理解が深まっている【港区】 ・認知症への誤解や偏見が少なくなり、地域ネットワークづくりに取り組んでくださっている【瑞穂区】 ・認知症の方と普段関わらない方が、興味があり、協力したいと思っている方がたくさんいらっしゃる。そんな方たちの第一歩になっていると思う【瑞穂区】 ・ボランティアのため、人が人を呼ぶ効果は感じている【南区】 ・地域で認知症について話題にすることが多くなっている【名東区】
d 協力者	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方はもちろん、地域の方とのふれ合い、交流も含めとても貴重な時間を過ごさせてもらっている。地域の需要があることを実際に感じることができ、活動のモチベーションにつながっている【熱田区】 ・月1回の運営スタッフでの会議では、認知症の方と家族のボランティア参加に向けた支援の検討など参加者に向けた議論ができるようになってきている（モノ、カネの話が少なくなっている）【南区】 ・認知症の人や家族と会話することで、その人たちが求めている思いを聞くことができた【守山区】 ・施設サービス、在宅サービス関係なく、介護職員として地域への連携協力ということへの意識が少しずつ高まっていくようを感じている【中川区】 ・自分たちも地域の一員としての自覚が芽生え、参加者の笑顔や言葉かけからモチベーションが上がり、認知症ケアについても自ら学びたいというスタッフも増えてきた【中川区】
	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方はもちろん、地域の方とのふれ合い、交流も含めとても貴重な時間を過ごさせてもらっている。地域の需要があることを実際に感じることができ、活動のモチベーションにつながっている【熱田区】 ・月1回の運営スタッフでの会議では、認知症の方と家族のボランティア参加に向けた支援の検討など参加者に向けた議論ができるようになってきている（モノ、カネの話が少なくなっている）【南区】 ・認知症の人や家族と会話することで、その人たちが求めている思いを聞くことができた【守山区】 ・施設サービス、在宅サービス関係なく、介護職員として地域への連携協力ということへの意識が少しずつ高まっていくようを感じている【中川区】 ・自分たちも地域の一員としての自覚が芽生え、参加者の笑顔や言葉かけからモチベーションが上がり、認知症ケアについても自ら学びたいというスタッフも増えてきた【中川区】
e 運営スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方はもちろん、地域の方とのふれ合い、交流も含めとても貴重な時間を過ごさせてもらっている。地域の需要があることを実際に感じることができ、活動のモチベーションにつながっている【熱田区】 ・月1回の運営スタッフでの会議では、認知症の方と家族のボランティア参加に向けた支援の検討など参加者に向けた議論ができるようになってきている（モノ、カネの話が少なくなっている）【南区】 ・認知症の人や家族と会話することで、その人たちが求めている思いを聞くことができた【守山区】 ・施設サービス、在宅サービス関係なく、介護職員として地域への連携協力ということへの意識が少しずつ高まっていくようを感じている【中川区】 ・自分たちも地域の一員としての自覚が芽生え、参加者の笑顔や言葉かけからモチベーションが上がり、認知症ケアについても自ら学びたいというスタッフも増えてきた【中川区】

3. 「なごや認知症カフェ」の課題

「なごや認知症カフェ」が自らの目的を達成するために克服すべき課題は何か。設問「今後、カフェを継続していくうえでの課題や問題点を教えてください（複数回答可）」に対する回答は以下のとおりである。



カフェ運営者の70.7%が「カフェの認知度が低い」ことを課題と捉えている。以下、多い順で見ると参加者が少ない44.0%、運営スタッフの確保が難しい36.0%、認知症の本人の活躍の場ができていない30.7%、地域住民の認知症への理解度が低い28.0%、協力者の確保が難しい28.0%である。

4. 課題の克服をめざして

「なごや認知症カフェ」の課題は、調査結果より「運営面：地域とのつながりをつくる」と「実践面：認知症の人・家族が過ごしやすい環境をつくる」と整理できる。

【「なごや認知症カフェ」の課題】

【運営面】地域とのつながりをつくる

- (1) 認知度の向上
- (2) 連携

【実践面】認知症の人・家族が過ごしやすい環境をつくる

- (3) 仲間づくり
- (4) 場づくり

上記の課題を克服するためには、「地域を知り、地域とともにカフェを運営していくこと」が重要になると考えられる。なぜなら、地域を知ることで、カフェ運営者が（1）認知度の向上をはかる方策を検討できるし、地域にある他機関と（2）連携をはかることもできる。さらに地域とともに在ることでカフェを運営する（3）仲間づくりも可能になって、その仲間と協力して（4）場づくりを行うことができるからである。

【課題の克服をめざすカフェの取り組み】

(1) 認知度の向上

- ・地域の様々な人びとに「認知症カフェ」というものを使ってもらいたいので、広報活動に力を入れている。地元の朝市（地元JA主催）でチラシを配布。施設周囲にのぼりを立てたり、看板を自分たちで作成し、設置している（少しづつ認知度は上がってきているように感じる）【中川区】
- ・近くのクリーニング屋さんにチラシを置いていただきて、お客さんに声かけしていただくようにしている【千種区】

(2) 連携

- ・中村区は連携して介護に取り組まれているように感じる。そういった会に時間があるときは必ず管理者が参加し、カフェのみならずいろいろな情報を得るようにしている。その情報をカフェに活かしていくと考えている【中村区】
- ・他事業所と連携をとり、プログラム等のアドバイスを受けている【守山区】

(3) 仲間づくり

- ・自由な発想を大切にし、上下の分けへだてなく参加意識でもって運営している【南区】
- ・協力者（ボランティア）の役割分担、事前・事後のミーティングを必ず行う【守山区】

(4) 場づくり

- ・参加者に認知症の方本人が見える際に、スタッフ（専門職）はそばにいるようにしている。参加者同士で認知症介護の大変さを話される方もあり、それを聞いてつらくならないようにするため【南区】
- ・楽しい、役に立つ企画を考えて提供したいという思いもあるが、提供するだけでなく参加者が交流する、相談できる場をもうけることを心がけている。あくまでも企画はそのきっかけになればという気持ちである【熱田区】
- ・専門職がかかわることで相談内容に柔軟に対応できる【天白区】
- ・毎回アンケートをとり、カフェに参加されている方のニーズに沿ったプログラムを施設内の「認知症カフェプロジェクトチーム」の会議にて検討している【中川区】

「なごや認知症カフェ」の在り方に関する調査研究
－カフェ参加者を対象に 調査報告書

2018年3月発行

調査研究：金治 宏（愛知淑徳大学）
山本 文香（名古屋市認知症相談支援センター）
横山 由香里（日本福祉大学）

【発行・問い合わせ先】

名古屋市認知症相談支援センター

住所 〒462-8558 愛知県名古屋市北区清水4丁目17-1

TEL 052-919-6622 FAX 052-913-8553